

教育環境の向上  
の方向性

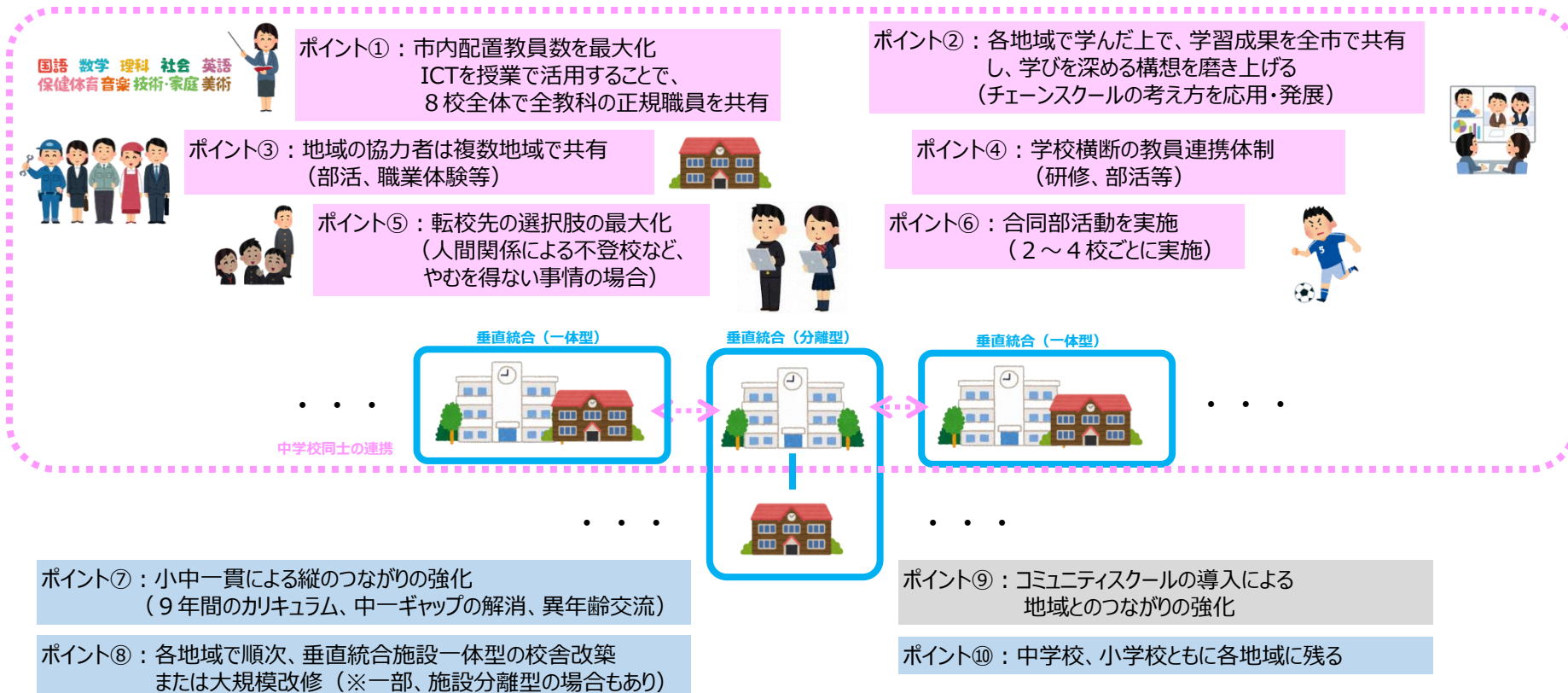
教員最大化  
+ 中学校連携  
+ 小中一貫

地域学習  
+ 中学校連携

他校との  
合同部活動

- ・学校数を維持し、市内に配置される教員数を最大化させ、中学校同士の間連携により、合同授業や教員研修等を行い、市全体の教育の質を向上させる
- ・9年間を通じた教育課程を編成し、安定的な教育環境を提供することで、中一ギャップ等の課題に対応する
- ・地域別の学びと、全市単位の学びを組み合わせ、郷土を愛し、多様な価値観や人間関係の中で未来を切り拓く人材を育成する
- ・合同部活動により、部活動の選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築し、他校の生徒との日常的な対面交流や多様な生徒が活躍できる場を提供する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



# 水平統合（2～1校）を北杜市で実施した場合の10のポイント

教育環境の向上  
の方向性

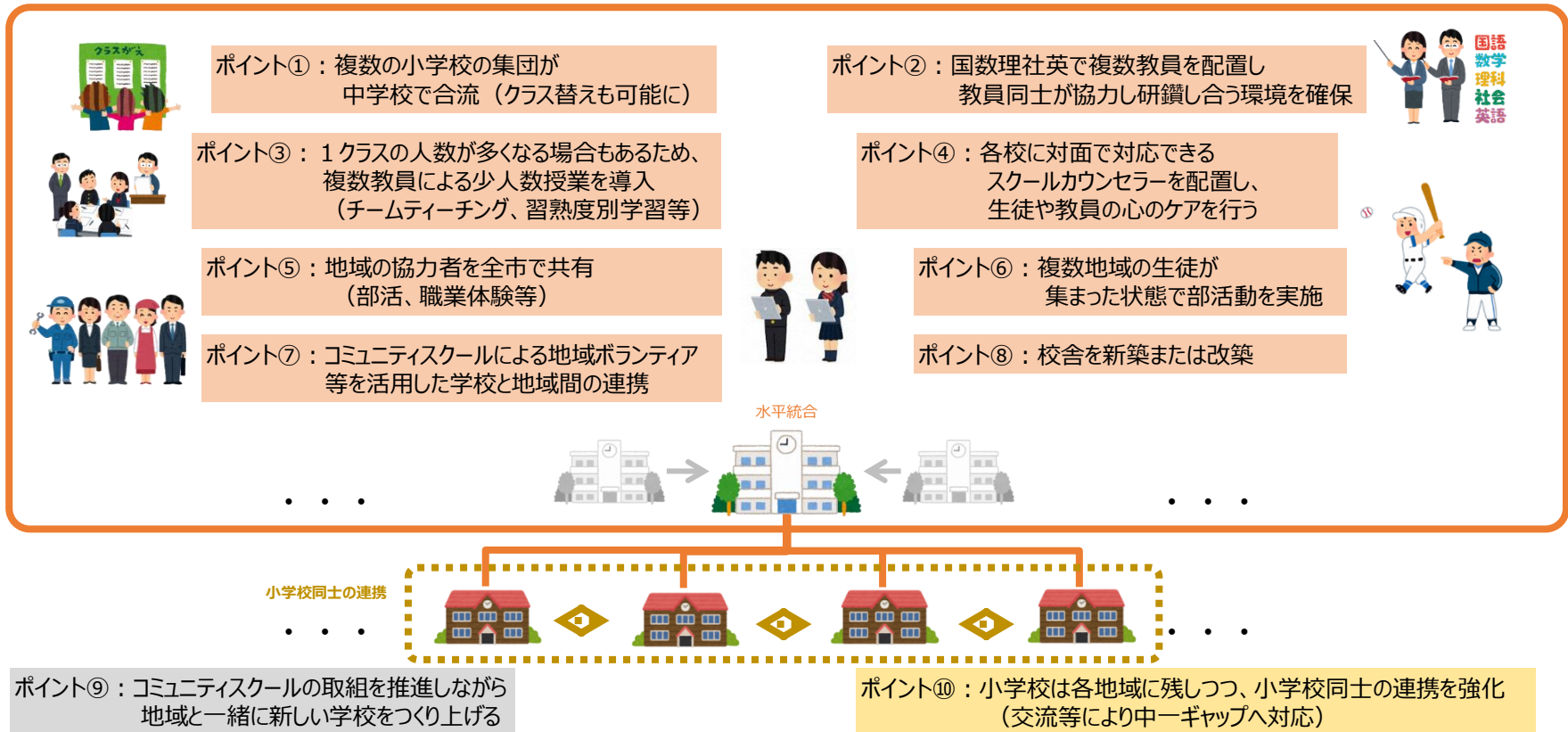
クラス替え可能な  
学校規模  
+  
少人数指導の導入

コミュニティスクールによる  
地域連携の構築

校内部活動の  
充実

- ・クラス替えが可能な学校規模のなかで、新たな人間関係の形成や社会を生き抜く力を育成する
- ・市単補助教員等の集約により、「チームティーチング・習熟度別学習」等の少人数指導など、きめ細かい指導体制を構築する
- ・コミュニティスクールを活用し、地域との連携を図る
- ・地域住民がボランティア等で学校に関わる仕組みを全市単位で構築する
- ・同校内における部活動の選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築し、多様な生徒の活躍の場を提供する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



# 組み合わせ（垂直統合+水平統合）を北杜市で実施した場合の10のポイント

教育環境の向上  
の方向性

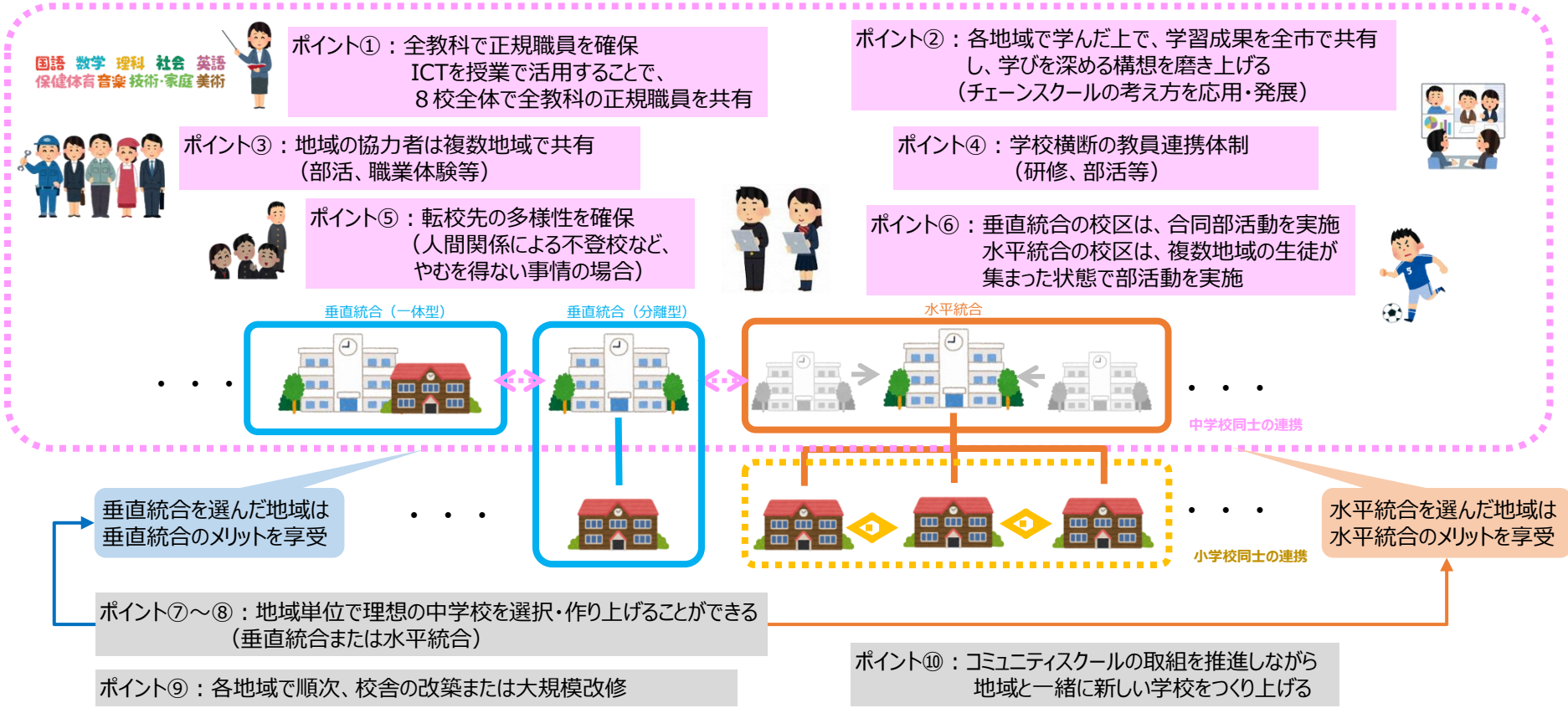
正規教員確保  
+ 中学校連携  
+ 地域で選択  
(垂直・水平)

地域学習  
+ 中学校連携

状況に合わせて  
部活動を実施

- ・市全体で全教科の正規職員を確保しつつ、中学校同士の連携により、合同授業や教員研修等を行い、市全体の教育の質を向上させる
- ・地域ごとの価値観に合わせて、理想の中学校を選択・作り上げることができる（垂直統合または水平統合）
- ・地域別の学びと、全市単位の学びを組み合わせ、郷土を愛し、多様な価値観や人間関係の中で未来を切り拓く人材を育成する
- ・合同部活動、同校内における部活動の2つのパターンで選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



	(現状)	垂直統合	水平統合	
メリット	<p><b>深い人間関係が築ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仲良く深い人間関係が築ける</li> <li>友達同士、内面を出しやすい</li> </ul> <p><b>安定感</b></p> <p>(統合することによる)混乱/心理的負担がない</p>	<p><b>地域性のある教育</b></p> <p><b>地域と共に成長できる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根差した教育/地域色のある教育</li> <li>地元の友達との関係を深められる</li> </ul> <p><b>地域コミュニティと連携できる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティスクールを行いやすい</li> <li>地域活動や防災などを学校が支えることができる</li> <li>子ども・両親ともに地域活動に参加しやすくなる</li> </ul> <p><b>少人数のきめ細かな教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生の目が行き届く</li> <li>個々人に応じた丁寧な教育ができる</li> <li>一人ひとりに活躍の機会がある</li> </ul> <p><b>通学の利便性を保てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近くの学校に通い続けることができる</li> <li>通学時間が短く、他のことに時間を使える</li> </ul>	<p><b>小中一貫による一人ひとりに寄り添う教育</b></p> <p><b>9年間を通した教育カリキュラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9年間通して生徒に寄り添うことができる</li> <li>小中一貫した教育カリキュラムを組める</li> <li>小学校でも教科担任制が可能になる</li> </ul> <p><b>子ども同士で面倒をみる環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年を越えて交流する機会が増える</li> <li>下の子の面倒をみる経験ができる/兄弟姉妹感</li> </ul> <p><b>環境変化が少ない</b></p> <p>中一ギャップが抑えられる</p>	<p><b>規模の大きな学校による、広い人間関係と水準の高い教育</b></p> <p><b>広い人間関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい友達をつくる機会もてる/人間関係が広がる</li> <li>社会性を培える/人間性が豊かになる</li> <li>競い合い、切磋琢磨できる</li> </ul> <p><b>部活動の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の選択肢が確保できる</li> <li>部活動の質の向上が見込める/チームが強くなる</li> <li>部活の顧問に適任の先生を配置しやすい</li> </ul> <p><b>行事や生徒会等の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事(学園祭など)が盛り上がる</li> <li>生徒会など各種の校内活動が活発化</li> </ul> <p><b>教員数の確保による質の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員が多く確保できるため、授業の質を高めやすい</li> <li>ひとつの教科に複数の教員を配置できるようになる</li> <li>教員体制が手厚くなり、分掌の負担を分散化できる</li> </ul> <p><b>多様性ある環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人間関係/コミュニケーションの経験ができる</li> <li>人間関係の逃げ場ができる/いじめから脱出しやすい</li> <li>趣味・関心などの世界が広がる</li> <li>他地域のことを学ぶ機会ができる</li> </ul> <p><b>校舎・備品等の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の施設・備品の質・量が向上</li> <li>図書館などの施設の規模が大きくなる</li> </ul> <p>高校生に進学したときにギャップが少ない</p>
	デメリット	<p><b>教員の質を保ちにくい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1教科1教員になるため、教員同士で質を高められない</li> <li>教員1人あたりの分掌が増え、教育に時間を費やしにくい</li> </ul>	<p><b>人間関係の固定化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>固定化した人間関係に慣れてしまう</li> <li>一度人間関係がつまずくとリカバーしにくい</li> </ul> <p><b>広い世界や刺激に触れる機会が少ない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切磋琢磨しにくい</li> <li>新しい人間関係を築くチャンスがない</li> </ul> <p><b>部活動を維持できない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活の選択肢が減っていく</li> <li>チームを組みにくい</li> </ul>	<p><b>年齢差のある教育の難しさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体格差が大きいとケガなどの危険が増す</li> <li>授業や休み時間が異なり、校内活動が一体化しない</li> <li>グラウンドや設備の利用ルールが煩雑になる</li> </ul>

# 【参考】第1回ワークショップで出されたデメリットへの対応

第1回ワークショップの主な意見から導出された「デメリット」の視点に対して、これまでの内容を踏まえた対応の考え方を整理している

垂直統合 ←	→ 水平統合
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>小規模校問題</b> <small>(1学年あたりの人数、教科担任複数配置など)</small> の解決にならない             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ICTを活用した学校間連携（授業や研修等）ができれば 教科担任を複数配置する必要はない</li> <li>➢ 教員それぞれが複数の教科等の連携を構想し、魅力ある教育活動を組織化</li> <li>➢ それぞれの地域や学校の意向や特性を生かした 特色ある教育実践、教科内容を検討</li> </ul> </li> <li>● <b>教員の質を保ちにくい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ICTを活用した学校間連携（研修や研究会）で打開</li> </ul> </li> <li>● <b>広い世界や刺激に触れる機会が少ない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ICTを活用し、広い世界に触れ、多様な人間関係に触れる機会をつくる</li> </ul> </li> <li>● <b>人間関係の固定化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ICTを活用した学校間連携（授業）で打開</li> <li>➢ 異年齢学年との縦のつながりで多様性を確保</li> <li>➢ 小さな規模の少人数によって、 目配りの行き届いた心の通う人間関係が期待できる</li> <li>➢ 小規模校ほど児童生徒にとどまらない 人間関係づくりを志向する実践も進めてきている</li> </ul> </li> <li>● <b>年齢差のある教育の難しさ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 学習空間を小中別々に確保しながら、一定の秩序を保つ</li> </ul> </li> <li>● <b>部活動を維持できない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><small>・国から休日における地域移行の方向性が示されており、選択肢によらず地域団体への移行や合同部活動になることが想定される</small></li> <li>➢ 地域と合同で学校を越えた部活動を組織することで解消</li> </ul> </li> </ul> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">※外部指導者、活動場所、移動手段、移動時間、用具をどう確保するのが課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>地域との関わりが薄くなる</b></li> <li>● <b>地域を選ぶ住民が少なくなる恐れ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 社会教育の枠組みで地域全体のボランティアの仕組みを構築</li> <li>➢ コミュニティスクール等を活用し、地域連携を進める</li> </ul> </li> <li>● <b>学校ごとの伝統がなくなる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 各学校の伝統を尊重しながら、新しい伝統をつくっていく</li> </ul> </li> <li>● <b>通学が不便になる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ スクールバス等の通学手段を充実して対応</li> </ul> </li> <li>● <b>人間関係が複雑になる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ スクールカウンセラーを確保して、生徒の心のケアが十分にできる環境をつくる</li> </ul> </li> <li>● <b>個々人に丁寧に寄り添いにくい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市単補助教員等を充実させ、生徒1人あたりの教員数を多くし、少人数指導などのきめ細かい指導を行う</li> </ul> </li> </ul>